

入間市第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定にかかる 市民説明会及び市民説明動画の公開について（報告）

入間市第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画（素案）の説明を行なうとともに、参加者からの意見聴取行い、計画策定に向けた審議に反映させることを目的として、全6回の市民説明会を開催しました。また、入間市高齢者福祉審議会にて、市民説明会に来場できない市民へも説明を提供することが望ましいとのご意見をいただいたことから、市民向け説明動画を市公式YouTubeに動画を公開しました。実施内容について下記のとおり報告します。

1. 市民説明会の実施状況

1) 開催日時、会場、参加者数

回	日にち	時間	会場	参加者数			
				市民	審議会委員	職員	合計
1	12月9日	10:00～11:30	産業文化センター	16	3	5	24
2	12月11日	14:00～15:30	宮寺地区センター	13	0	5	18
3	12月12日	10:00～11:30	東金子地区センター	11	2	5	18
4	12月13日	10:00～11:30	藤沢地区センター	13	3	5	21
5	12月15日	10:00～11:30	金子地区センター	9	2	5	16
6	12月15日	14:00～15:30	西武地区センター	21	2	5	28
				83	12	30	125

2) 周知方法

- ・市健康推進クラブ連合会及び単位健康推進クラブ、民生委員・児童委員協議会に依頼文を通知
- ・市公式ホームページに掲載

3) 配布資料

計画の【素案・概要版】を個別配布

4) 内容

- ①開会 ②挨拶 ③計画の概要について（PowerPointを使用） ④質疑応答 ⑤閉会

2. 市民説明動画の公開状況

- 1) 公開期間：令和5年12月8日～令和6年1月5日
- 2) 公開場所：市公式 YouTube
- 3) 視聴回数：122 回
- 4) 動画の内容：市民説明会の PowerPoint 資料と同様



3. 市民説明会での質疑応答

①12/9 産業文化センター

※表中のページ表記は素案・概要版のものです。

市民からの質問・意見	事務局（市）の回答
フレイルとはどのようなものか教えてほしい。	フレイルは介護が必要な状態と健康な状態の中間の段階のこと。具体的には、加齢に伴い筋力が衰え、疲れやすくなり家に閉じこもりがちになるなど、年齢を重ねたことで生じやすい衰え全般を指している。※2 回目以降は説明の中に追加。
フレイルチェックはどのようなことを行っているのか。	次期計画から成果指標として通いの場におけるフレイルチェックを実施予定。現在は、基本チェックリストや体力測定を実施している。
8 ページ居場所づくり、通いの場づくりとは具体的にどのようなものか。居場所づくりと通いの場づくりは分けて記載すべきではないか。また、成果指標には通いの場のみの記載であるが、居場所も含めたほうが良いのではないか。	通いの場とは、住民が気軽に集い活動する場であり、サロンやサークル、介護予防など、ボランティアの方々により活動が展開されている。市内には様々な魅力的な通いの場が 80 以上ある。居場所は高齢者が居心地よく過ごせる場であり、通いの場は居場所の一つと捉えられる。明確に分けられるものではないと考えている。成果指標で検討している基本チェックリストの実施先は通いの場であるため、成果指標についてはそのままの表記としたい。

<p>包括の仕事の範囲を拡大できないか。移動手段のサービスを付帯してほしい。9ページに移動手段の確保とあるが、通いの場等の運営をしている立場として、移動手段の課題が大きい。健康推進クラブやボランティア活動の団体が減少している。反面、高齢者数は増加している。老々介護が多く、介護が必要な状態になると、通いの場等に来られなくなる方が多い。</p>	<p>意見のみ</p>
<p>敬老祝い金は必要なのか。高齢者はお金を持っているので、振り込め詐欺防止など、他の事業に活用した方がよい。</p>	<p>意見のみ</p>
<p>移動手段の確保の具体的な取組について知りたい。</p>	<p>現状では対象者にタクシー券、公共交通（ていーろーど、ていーワゴン）の特別乗車券の配布を行っている。また、他市を参考にデマンド交通等、高齢者の安全に配慮した足の確保について検討を行っていきたいと考えている。</p>
<p>3年後までにどのくらいの目標を達成できるのか。ロードマップがあるとよい。</p>	<p>成果指標を設定している。また、PDCAサイクルに沿った進行管理を行う予定としている。</p>
<p>15ページ見守りボランティアの登録者数が成果指標になっているが、民生委員は見守り活動を行っており、現状値と目標値が少ないのではないかと。また、民生委員は高齢者等見守りネットワークの団体とであるとの認識でよいのか。</p>	<p>成果指標にある見守りボランティアは、「見守りボランティア事業」として見守りやゴミ出し等を行っていただいている方であり、民生員の活動とは別のものである。なお、見守りボランティアについては用語の説明に掲載している。民生委員をはじめ、地域の方々の見守り活動については、大変ありがたく思っている。入間市民生委員・児童委員協議会は、入間市高齢者等地域ネットワーク推進会の構成員である。</p>

②12/11 宮寺地区センター

市民からの質問・意見	事務局（市）の回答
独居高齢者など、地域包括支援センターまで出向けない方への支援について教えてほしい。	民生委員等から地域包括支援センターや行政へつないでいただいている。地域のつながりが重要であると認識している。また、計画を作成することによって、支援をする方にも必要とする方にも、介護保険制度について知るきっかけとしていただきたい。
市の計画では「支援」「推進」「充実」などの用語が使用されているが、具体的な取組みが必要である。	本日の配布資料は概要版であり、具体的な取組までは記載がないものである。パブコメ実施施設やホームページにある素案には具体的な取組も記載されている。
自治会や健康推進クラブの加入者は減少し、人とのつながりを求めない高齢者もいる。若い人が地域活動に出てこない。現実的に厳しいと思う。	大変な現状については把握しているところもあるが、動かなければ何も進まない。計画を一つの手段として、出来ることから取組ことが大切であると考えている。
計画の具体的な取組は、地域包括支援センターにお願いするばかりのように思う。市が行うものもあるのか。	市が直営で行う取組もある。地域包括支援センターは市が委託している施設であるため、市の事業の一環として包括の取組がある。なお、計画の取組は行政のみが実施するものではなく、地域住民や関係機関の方々も一体となって推進していくものと認識している。

③12/12 東金子地区センター

市民からの質問・意見	事務局（市）の回答
<p>介護が必要な高齢者がサービスを受けるためには、自分から申し出なければいけないのか。</p>	<p>介護保険認定の申請は必要。当事者からの発信がない場合でも、民生委員や近隣等の地域の見守りから包括への相談があり、支援につながっているケースがある。</p>
<p>認知症施策の小中学校での取組みについて知りたい。</p>	<p>認知症サポーター養成講座については、次期計画の具体的な取組において、義務教育中に1回以上受講ができるように働きかけることとしている。 また、オレンジガーデニングプロジェクトでは小中学校、高等学校の賛同が増えている。若い世代から認知症への理解を深める取組を今後も推進していきたい。</p>
<p>9 ページ移動手段の確保と、病院の送迎サービスの違いについて知りたい。</p>	<p>病院の送迎は市の事業ではなく、病院の独自サービスになる。計画にある移動手段の確保については、既存の公共交通の活用と、新しい移動手段の確保の検討の取組に関するものである。一部地区で実施したデマンド交通の実証実験の結果を基に、高齢者が安全に利用できる移動手段について検討していきたい。</p>
<p>今後の保険料について教えてほしい。</p>	<p>保険料は、介護給付費の見込み量、国から示される介護報酬の見直しを基に検討し、今後お示しする予定。</p>
<p>敬老祝い金について、77 歳が金品からお茶に変更されたが、後退しないような事業をお願いしたい。</p>	<p>77 歳は平均寿命よりも下になる時代になっており、高齢者の増加、市の財政状況を鑑みて検討していくことになる。敬老祝い金事業の継続や内容については、金品に変わる支援も含めて、市や高齢者福祉審議会で検討していく。</p>

これまで国を支えてきた高齢者としては、敬老祝金等支給事業の縮小はさみしく思う。	意見のみ
コミュニティバスを利用しているが、高齢者の利用者がほとんど。所沢市のコミュニティバスには高齢者だけでなく、いろいろな世代が利用しており、毎月２２日は安い料金でできるサービスがある。入間市でも様々な世代に活用できるようにサービスを検討してはどうか。	コミュニティバスの担当課である都市計画課に情報提供する。

④12/13 藤沢地区センター

市民からの質問・意見	事務局（市）の回答
16 ページ特養の待機人数、平均待機年数を教えてほしい。	待機人数は 150 名程。平均待機年数は集計がない。
12 ページ家族介護者の支援の具体的な取組について教えてほしい。	家族介護者からの相談体制の整備として、地域包括支援センターの充実に努めていく。また、情報交換や気持ちを話す場として家族会を開催したり、介護や認知症症状への対処方法について情報提供を行ったりしている。
老健の利用に当たり、課税世帯と非課税世帯で居住費と食費の負担額に大きな差がある。料金設定の考慮をしてほしい。	全国統一の基準である。
第 9 次と第 10 次の計画で大きな変更点はどこか。	国の挙げた重点項目の一つはヤングケアラーに対する取り組みである。市ではヤングケアラー支援条例が制定されているため、新たな取組として入れている。他に、重層的な取組についても新たに記載した。

11 ページ認知症初期集中支援チームに民生委員としてお世話になった。このような支援があることを周知してほしい。	意見のみ
14 ページ「市民が市民を支えるまちづくり」はその通り必要だと思うが、担い手がいらない、育たない。市としてどう対応していくのかを考えていかなければならないと感じている。	意見のみ
15 ページ見守りボランティアの登録者数が少なく、事業はあるが実態が伴っていないのではないかと感じる。他ボランティアとの連携が必要なのではないか。	意見のみ
19 ページ介護人材の確保で、外国人の登用についてどのように考えているか。	介護職の雇用は施設が行うため、施設の考え方による。一部の施設では外国人雇用があると聞いている。
9 ページ介護予防教室の男性参加人数が成果指標なのは、男性の参加者数が少ないからか。	その通り。
11 ページ小中学校で行う認知症サポーター養成講座について、手を挙げた学校にだけ実施しているのか。	校長会での説明や地域包括支援センターから各学校への声掛けにより、講座開催を依頼している。次期計画の具体的な取組において、義務教育中に1回以上受講ができるように働きかけることとしている。
施設整備量は待機者がおり十分とは言えないと思うが、市として施設整備量はどのように考えているのか。	特養などの広域型施設サービスについては、作りすぎても待機者数が皆利用をするわけではない、介護報酬増加などの課題もあるため、県と連携して整備を進めていく。また、地域密着型サービスは、開設いただける事業者がいらない、地域差が出ている現状もあるため、整備計画に則り整備を進めていきたい。

健康推進クラブの所管課はどこか。どのような支援を行っているのか知りたい。	健康推進クラブは市民の任意の活動団体であり、市が設置したものではない。高齢者支援課が活動の支援や補助金交付をしている。今後は、金銭支援は財政事業で困難になってくことも懸念されるため、事業開催支援、民間企業との連携なども行っていきたい。
継続的にボランティア活動を行うために、所管課をはっきりさせ、地域団体の育成を行ってほしい。	意見のみ
2025 年問題もあり、介護需要の増加に伴い、介護保険料は上がり、介護保険サービスは減らされている現状があると思う。介護保険制度は素晴らしい制度だが、持続可能な制度とするために、市として保険料と介護保険サービスをどうしていくかを真剣に考えるときになっていると思う。計画については、実態に即したものであるべきである。	必要な介護サービスを受けていただくためには、介護保険料が必要になる。コロナの影響で介護サービスの利用控えがあったこともあり、基金への積み立てが約 13 億円ある。基金の活用も踏まえて介護保険料の検討をしていく。
在宅医療と介護の連携について、入間市は医療が十分でないことが課題であると思う。在宅医療支援センターが相談を受けているのは知っているが、看取りまでやっていただける医療体制がないと、安心して暮らすことができないと思う。	令和 5 年 4 月に訪問診療専門のクリニックが開院した。また、外来と並行して訪問診療を行っている医療機関もある。在宅医療と介護の関係者の顔の見える関係性作りから連携を推進している。また、限りある医療を適切に受診いただき、また、ご本人やご家族等の希望に沿った医療を受けるために、人生会議や適切な医療受診についても普及啓発を行っていきたい。

⑤12/15 金子地区センター

質問なし

⑥12/15 西武地区センター

市民からの質問・意見	事務局（市）の回答
<p>住み慣れた地域という言葉が出てくるが、どのくらいの年数、どのくらいの範囲のことをいうのか。</p> <p>自分は転々と住まいが変わっているため、住み慣れた地域はない。住み慣れていないと面倒を見てもらえない、という印象を受けるため、表現を見直してもらいたい。</p>	<p>「住み慣れた」は個人的な感覚であり、具体的な期間や範囲はない。</p>
<p>個人情報について、民生委員として活動をしているが、個人情報の壁により、爪 QR シールや避難行動要支援者名簿などの活用が難しい。例えば、爪 QR シールは本人情報やお薬情報が読み取ればよいが、市役所の連絡先だけである。危機管理課と高齢者支援課等の庁内連携により個人情報の活用を検討していないと、情報の活用ができないと思う。</p>	<p>意見のみ</p>
<p>入間市の隣接地域との連携について。徘徊高齢者の対応など、近隣市との連携についても考えてほしい。</p>	<p>近隣市との連携については検討していく。なお、ひとり歩き高齢者等への地域の見守りとして、声かけ運動の取組を行っている。</p>
<p>「住み慣れた地域」の言葉には捉われなくてもいいと思う。転々としていても、今の自分のいる身近なところにおいて、介護保険制度の活用や民生委員への相談などの声を上げていくことが大切だと思っている。</p>	<p>意見のみ</p>
<p>9 ページ移動手段の確保の具体的な取組について知りたい。</p>	<p>ていーろーど・ていーワゴンに変わる移動手段としてデマンド交通の導入の検討を進めていくこととしている。</p>

高齢者より、バス停にベンチを設置してほしい、バスの運行時間が早い・本数が少ない、交通手段がなく買い物に行くのが大変という意見を聞く。	コミュニティバスの時刻表は今年改定されたばかりであり、すぐに変更することは難しいと思われるが、担当の都市整備部に情報共有し検討をしていきたい。
以前は社協の移送支援があったが、なくなってしまった。今後の社協のサービスの見通しはあるか。	社協事業のため不明。確認する。
個人情報に過度に閉じ込めている。危機管理課が管理している要支援者名簿は細かな個人情報が記載されている。自主防災会、民生委員は年3回見守り訪問をし、情報共有をしている。しかし、市が個人情報を発信しようとし、要支援者名簿等の活用を十分に検討していないため、登録者が増えない・情報が分からない等の課題が出ている。	個人情報の扱いは国の法律に基づいて取り決めており、市判断での活用は難しい。災害時などの除外規定はあるが、目的外使用には制限が出てしまう。個人情報の適切な取り扱いについては、市全体で周知をする必要があるため、担当部署に意見を伝える。
交通はバスだけの問題ではなく、1キロ先の集会所等まで出かけることも大変な方がいる。個別の対応が求められている。西武地区のおげんき会など、地域資源の活用が重要になってくると思う。	意見のみ
4ページと6ページの高齢者数の数値が違う。	確認する。
9ページ敬老事業の具体的な取組を知りたい。敬老会に「各区」とあるが、自治会員以外も対象にするのか。	財政支援以外の支援については検討中。「各区」は地域振興課の依頼があり今計画より追加したが、敬老会の開催実情と異なるようであれば見直しを検討する。
飯能市では平成18年に移送手段がなくなりそうなときに、社協がドライバーを雇用して事業が継続したようである。他市事例も参考にしてほしい。	意見のみ